



PRIMULA CUNEIFOLIA BULLETIN

30th Primula Bulletin 93

プリムラ山の会

プリムラ山の会 (通巻92号) 2014年2月5日発行 発行人: 大坪邦久 編集/デザイン: mizunodesign.com

Primula93

c o n t e n t s

クローワール・・・・・・・・・・・・・・・・	2
In a Shot・・・・・・・・・・・・・・・・ 岡孝雄	3
93号のお題：いちばん寒かった山の夜。・・・・・・・・	4
プリムラ30周年。・・・・・・・・・・・・・・・・	6
アッシニボインの頂へ・・・・・・・・・・・・・・・・ 小堀 和貴	8
マイナールートは楽しいニャン =^_^= その6	
秩父・両神山・尾ノ内沢道～天理岳の巻・・・・・・・・ 初鹿 裕康	12
小川山セクションほか・・・・・・・・・・・・・・・・ 佐藤 正俊	14
宝剣岳、木曾駒ヶ岳・・・・・・・・・・・・・・・・ 佐藤 正俊	16
蝙蝠岳で越年・・・・・・・・・・・・・・・・ たいら まり	18
積雪期のマイナールートも楽しいワン U^ェ^U その14	
南ア・中の尾根山～光岳 大敗退の巻・・・・・・・・ 初鹿 裕康	22
子連れハイク(2歳)・・・・・・・・・・・・・・・・ 市瀬 江利子	24
景色を見ながら!・・・・・・・・・・・・・・・・ 初鹿 裕康	26
なほみさんのいつまでやってんだクライミング日記。・・・・ 水野 奈保美	29
山行一覧(1) 2013年9月7日～11月3日・・・・・・・・	33
山行一覧(2) 2013年11月3日～12月15日・・・・・・・・	34
山行一覧(3) 2013年12月15日～2014年1月15日・・・・・・	35
編後記ですよ・・・・・・・・・・・・・・・・	36

Primula 93

Couloir

ビリカン [Billycan]



こんなかんじのやつ

聞くとどっかのフリマかなんかで手に入れたらしく、アウドドアショップで購入したわけでは



ホットンのビリーカン



DUGの「焚き火缶」

先日、知人の豪人クライマーが素敵なビリカンを持っていた。一見、「パーコレータ」かと思ったんだけど、よく見ると「口のついた」ビリーカンだった。

ない様子。で、「ビリーカン」でググってみる。どうやら、「ビリーカン」つーのは「ホットン」というイギリスのメーカーで作っていたのが元祖らしいが、1990年なかばに倒産してしまったそうだ。うーん。買ってあげばよかった。キャラバンの「溪流コップフェル」も、もう作ってないみたいで、今購入可能なのはDUG（ダグ）の「焚き火缶」だけみたい。

そのなかでアンティーク部門では珐瑯製の



こんなのや→

←こんなのがヒット。

これらは別の意味で素敵だね～。



で、その豪人クライマーがビリーカンとはもともと紅茶を入れるポットだった、みたいなことを言っていたのを思い出した。おお～そうなのか。で、原語 Billycan でググってみた。

<http://en.wikipedia.org/wiki/Billycan>

上記英語 Wiki によると（テキトーな意識だけどもあこんなもんでしょう）

■「ビリーカン」とは英国やアイルランドのオーストラリア調査航海時代、ゆで肉や塩漬け牛肉などを輸送する際に使った大きな缶の使用後に、取手(?)をつけて、お湯を沸かした（which after use were modified for boiling water over a fire となってる）ことが始まりで、主に英国とアイルランドで使用されている用語（道具）である。

■言葉の由来はアボリジニの billa(水; 分流)ではないかという説がある。

■オーストラリアでは「ビリー」はアウトバック探検の精神を象徴する言葉となってきている。

■「ビリーを沸かす (To boil the billy)」は、お茶を入れる (make tea) ことを意味する。

■「ビリー・ティー」は、オーストラリアのマーケットの中で長く売られた茶のポピュラーな商標の名前。

へえ～そうなんだ～。

と、おなじみビリ缶に関する豆でした。



初冬のノ倉

岡 孝雄

今回で何度目になるのか分からない位出合に立つ。数年前から観光シーズン中はおろか、車輛の乗り入れが年間を通じてできなくなり、自然保護と交通事故防止にはなっているが、こと写真を撮影する立場からするとまことに不都合な事となった。と言うのも悪天候中での待機ができなくなったのである。避難小屋を利用するかテントを設営すれば良いのだが、そこは慣れ親しんでしまった事由、億劫になりがちだ。こんな訳で最近では以前ほど通わなくなった。

初秋の冬型気圧配置が緩むのを確認して、センターを暗いうちに出発するが、稜線はガスがかかり東の空は開けない。朝光と残紅葉と新雪のイメージを抱いていただけに何ともやるせない。何とか東尾根のシンセンのコルから弱い陽が入った。色温度の低い時間帯は過ぎたが、露出をかなり切り詰め光を重視した作品づくりに心掛けた。

変化がないのでユノ沢の滑滝を目的に行く。出合に着くと、何とゴーロの出合から雪面が続く。大岩の窪みに落ち込みながら滑滝に着くが、水量は少なく単純な滝となっていた。中央壁は草付が多い分雪の付着は多いようだ。ブナの雫でしばらく遊びノ倉に戻るが、依然としてガスが濃い。今回もだめだ!!

肩を落として 10 分程下り、ふと振り向くと垂れ

込めていたガスが急速にあがっていく。失敗した!! 大急ぎで出合まで戻る。逸る気持ちを静めるのも後回しにして取りあえずシャッターだけを切った。一段落したところでフィルムに変えた。この間 15 分。都合 25 分間のドラマは終わった。一面の青空。これはこれで良いのだが、変化のある被写体ではないだろう。

朝方からいたカメラマンは既になく、この瞬間を画像に残すことができたのは俺一人。などと他愛のない意味もない変な優越感も感じた。我慢と忍耐がもう少しあったなら 30 分間のドラマに最初から立ち会うことができたのに!!

谷川温泉からの南面の夕方もそれほどではなかったが、幕岩・俎山の岩稜と雪稜は是非とも本腰を入れて撮影したい。以前の偵察からでも天神尾根上部からが良いと思っている。

水上で買い物をしセンターで泊まる。暗い中出合につくが今朝はピーカン。まだ雪の付着が十分でなく、濁った朝焼けだった。

天候が良いか悪いかの時のノ倉。変化を求め何度か又通うつもりだが、最近では行ってもだめなのか?との意識が先行して腰が重くなっている。その場になくても写真は撮れない。正にこのことの真実をかみしめ、ラッセルを覚悟しよう!

Primula
93

Vol.93 のお題

いちばん寒かった山の夜。

1; 大鳥小屋 朝日連峰

あれは高校3年生の夏休み。受験生なのに勉強もせず、ましてや山岳部でもなく、陸上部なのに朝日連峰の縦走の初日。無人の大鳥小屋に泊まった夜。

広い小屋の片隅の板敷きに新聞紙を敷き、シュラフなどなく、カバーのみで衣類をあるだけ着

込んで寝たが、汗をかいた綿の下着では当然寒く、疲れで多少眠れはしたが、朝がくるまで我慢していただけであった。

翌日は朝日小屋まで歩き、こやばんの人に味噌汁をご馳走になったことを、30年以上たったのに覚えている。(H.S.)

2; 甲斐駒 南ア

まあ、甲斐駒5合目の耐寒訓練は寒かった。実際の山行では年末年始の北岳バットレスでの簡易雪洞シュラフカバービバーク。大晦日の食事は栗羊羹一切れ。これは気持ち的に寒かったなあ。(H.H.)

3; 年末年始 南ア

私が初めての年末年始の南ア合宿で、先輩から耐寒訓練命令があって私を含む三人の新人は、フライとスコップを手渡され、テントから追い出されて寒い思いをした事があった。適当なところでフライの中で寝ようとするが、中々寝れずに結局、朝までお話ししたり、唄を歌って過ごすという長い夜を感じた苦い思い出がありました。(M.Y.)

4; 妙高&火打 妙高・頸城

秋、妙高と火打に行ったとき。十人以上で行ったにもかかわらず、私以外は小屋泊り。雪はないが、寒さ慣れしていない時期に、

単身テントで夜半の寒さが堪えた。みんな揃って小屋泊り、というのが気持ちを寒くしたのかもしれない。(M.T.)

5; 穂高、劔 北ア

山行中の寒さに耐えることは、冬季登山を目指すものにとって避けて通れない命題である。

ヒマラヤ遠征に銘打って耐寒訓練の為、浅井・小堀氏らと共に積雪期の穂高岳コブ尾根上で二人一組、三つのグループに分かれ、ツエルトとシュラフカバーのみで一晩過ごすというものだ。夕食のバーナーが消えた途端に、ツエルト内部が凍りつく。防寒具はオーバーヤッケとズボンとシュラフカバーのみ、着の身着のままを想定しての訓練である。

-20℃を超える寒さで、歯の根も合わない程震えた。接するメンバーの震えが伝わってきたが、そこが唯一のぬくもりで、それを逃さないように必死であった。杉並山の会の栗原氏の背中である。あくまでも、訓練の為の山行であったが骨身にしみる寒さだった。

本番では、気温以上に寒く感じたのが、小堀氏と登った厳冬の劔岳八ツ峰縦走の時のように思う。ノンデポで実施する山行の為、2週間+α分の装備と食料・燃料を二人で分担。装備や食料はグラム単位まで算出し、寝袋や着替えは

勿論、ビール等の嗜好品も削った。行程が進み、八ツ峰上に達したところから、身体の中から発せられる熱が減少。夕食後、急いで寝ても2時間ぐらいいで、寒さの為に目が覚める。一日中、ラッセルと登攀の連続でクタクタのはずなのに、寒さで眠れない。紅茶を作りそれを胃に流し込むと身体が暖まり、2時間くらい眠れる。しかし、その至福の眠りも、寒さの為に目が覚める。また、紅茶を沸かしそれを飲む。これの繰り返し。

日を追うごとに体の中から熱の発生が鈍くなる。降雪と低温の無機的な環境に身体が晒され、寒さに鈍感になっていく。足の先が少しずつ凍り始め、手袋を外して、足先を揉む。劔岳山頂に至る頃には、手や足の先が行動中でもチリチリと痛み始めた。早月尾根を下り、番場島から伊折に出るまで、さらに3日間を要した。

「身体が負った寒さ」を考えると「最も寒い山行」といえる。翌年の劔岳源次郎尾根縦走も同じであったが、凍傷で右足第2指第1関節を失ったことは残念でならず、寒さに負けてしまった思い出である。(K.O)

4; 谷川、劔 谷川・北ア

最初に行った敗退の冬の一ノ倉尾根。懸垂岩の下での座ったままでのビバークは、季節外れの雨に降られて、シュラフもびしょびしょになり、朝まで体の震えが止まらずに過ごした。

もう一つ、思い出すのは、GWの劔、源次郎尾根。帰りにはしご段乗越から黒部ダムへ

抜けるルートが、雪が悪く予想以上に時間がかかり、黒部ダムの入口まで切り切った時にはすでに暗くなり、雨も降ってきた。体力的にも限界で、明るく無風の快適な構内にもかかわらず、体が冷え切って食欲もなく、今考えると、ちょっと危なかった気がする。(E.I.)

Primula
93

プリムラ 30周年。

プリムラ山の会創立 30 周年にあたって

浅井 邦夫

会創立時を振り返ると、私の山登りは全てにおいて充実していました。日々が山を中心に回っていた生活。稼いだ金は、山に注ぎ込んでいました。ある山道具屋さんは私の金で大きくなったのではないかと、思った時もあります。

勤め人として、恵まれた職場環境に居たことから、私の山登りは発展したと思っています。今の時代であれば直ぐに退職勧告をもらうのかも知れません。私は、技術職でしたから、年次有給休暇で休んでいれば、年間の仕事計画に穴を開けない限り許されていました。色々な事に余裕のある時代だったのでしょう。そして、同僚も理解してくれていたと思います。

また、もう一つ忘れてならないのが、岳友に恵まれていたということです。刺激し合い、お互いの長所短所を理解しあって共に山に登っていました。一緒に登って、じっくりくる人、こない人がいます。私の周りの仲間は、どうしてなのかは分かりませんが、俗にいう「馬が合う」ということなのか、大方のことは許しあっていました。ただ、山行中は本気で喧嘩もしました。

人間、運不運はあります。でも、動物的本能の様なものに救われることがあると思っています。それは、経験により身に付いたものなのか、自然に対するひたむきさの表れなのかも知れません。

この間、私はちょっとしたミスで命を落としてもおかしくない場面を潜り抜けてきました。中でも、谷川岳幽ノ沢中央ルンゼでの滑落事故では、私の守護神に助けられたと思っていますし、今は亡き本山氏のおかげで今の私があるとも思っています。その氏も3年前になりますか、南アルプスの氷瀑で単独登攀中に滑落死して今はもう会うことができません。本山氏がプリムラ山の会を辞めてからは会うこともなく、どんな山登りをしていたのか分かりません。ただ、本人もそうでしょうが、私は大変無念でなりません。

年齢は確実に増して行きます。今では山登りが記憶の世界となりつつある私。全てが許せば、体を鍛えなおし、もう一度雪に埋もれた谷川岳の旧道をラッセルして、身震いしながら一ノ倉沢の冬の岩壁に向かった出合に立ちたい。

プリムラ山の会創立 30 年に思う

小堀 和貴

30 周年の原稿を頼まれて、さて、なにを書けばいいのか。

編集の平ちゃんに怒られるので、土日、アイスに行かず、書くことにする。

創立時は、32 歳だったのかと、30 年前に思いをはせる。確か新宿で、創立の4人に、OさんKさんと、発足を祝う飲み会をしたはずだ。

30 年の歳月に、記憶は薄れ、山行の想いでも、

色あせてくる。過ぎ去る歳月に、人は去り、変わる。

同年代で、現役ではない人も、多くなった。解らないが、自分も変わったのだろうか。

それでも、私はと言うと、山に行かない時は、朝早く、走りに行くのが、日課である。

今朝も、4 時 40 分に家をでて、15Km 走ってきた。タイムが遅くなったのを除けば、変わりはないし、クライミングにもランニングにも、情熱が失せることはない。

30 年間の様々なクライミングを思うとき、一緒に行ってくれた仲間達には、感謝したい。

ただ一度だけ、単独で行った冬の幽ノ沢一ルンゼさえも、岡さんが出合いで、入山から下山迄待っていてくれて、一人ではなかった。

人生の最終章に入り、正直なところ、振り返る大切な 30 年の想いよりも、明日の、ロブソン、カナダのユーコン準州や白き高峰、そういうものに夢を託していきたい。

退会した人も含め、今日まで、その時その時に、会を支えてくれた会員諸氏、どうも有り難う。

あの頃は良かった！今もいい！

岡 孝雄

プリムラ 30 周年。創立メンバーの一員として感想とのことだが、よくもこの期間存続できたなーという一語に尽きるのではないかと思います。創立当時 3 年で潰れるよ等と陰口をたたかれもしました。

確か 1 回目の山行が明星山の左カンテ。登攀中の事は殆ど記憶に残っておらず、下降時のルートが判然としない中、頼りのなさそうな枝を支点とした懸垂下降。飯場小屋でのカメムシ事件。いずれにしても距離の離れている山によくも計画したものでした。

当時岡のやりがいのあった山行としてあげられるのは、6 月の穂高屏風岩・東壁・東壁ルンゼ、右岩壁・ルンゼ状スラブを 1 ビバークと岩小屋 2 泊で 3 日間連続で登ったこと。体力とスピードを支えた若さと登攀欲。青春でした。

冬期谷川岳の岩場はいくつか登っていましたが、壁となるとプリムラのメンバーとなってからでした。烏帽子岩奥壁等、ビバークの苦しさからハンモック等も使用するようになりました。目標に向かってのトレーニングや戦術を考えることは楽しかったです。

岡の最後の登攀は、肩の手術後間もなく、トレーニングもなされない中での谷川岳・一

ノ倉沢・滝沢右稜。パートナーに助けられ完登出来ました。手術以前の滝沢リッジも大いに印象深いものとなりました。その他五竜・鹿島の継続登攀。屏風岩の缶ビール事件。丸山東壁の墜落。槍ヶ岳西稜の爽快な登攀等どれをとっても、現在の岡の存在を形造ってくれたものになっています。

パートナーと良き仲間に恵まれ、楽しく充実した日々（岡は山のことだけを中心に考えて過ごしていました）を送っていました。山中心の生活が良いか悪いか分かりませんが、プリムラ会員だからこそ出来た。楽しい思い出のみ蘇ってきます。

ここ 10 年間、山は登る対象から写真撮影の対象になりました。山登りの会は登らないといけない。登って何ぼだ！過去自分でも大いに豪語していました。いつの間にかこの主張も薄くなり、今では会員の山行報告を楽しみに、例会に出席だけはするような、お邪魔虫的存在になってしまいましたが、こんな岡でも会員で居られるのも（会をやめたら！などの声も聞きましたが）プリムラの良さだと思います。

現在は生活・仕事等の速度が速すぎて、密度も濃く複雑です。人間関係も同様です。山登りの世界も特別でなく社会を反映したものです。そんな中で「山登りの会・プリムラ」を組織し運営を

するということは本当に大変なことです。

会員の生活スタイルを始め、山の登り方も違う。お互いの相違点を認めつつ会としての機能を果たす。各自も努力する。この点完全では勿論ないが今のプリムラはうまくいっているのではないのでしょうか？皆が仲間の存在を認め合う組織は長続きするよ

うに思います。多分に身勝手な考えですがこのように思います。今でも自分たちで創った会だ、大事にしていこう！と思いますが、それより皆で創る会だ、大事に育てよう！の方が大事だと思います。

「プリムラ山の会」発足当時の思い出

大坪邦久

浅井・小堀さんらが厳冬の谷川岳一ノ倉沢滝沢リッジの登攀中、記録的な降雪に見舞われた。私は、進退窮まり無い状態を想定し、不安で土合駅に詰めていた。「何かあったら」と土合駅に駆けつけてくれた岡さんと酔えないウィスキーを飲み、二人の安否を気遣いながら「登山とは」如何なるものかを一晩中話したように思う。登攀中の彼らを心配することは、彼らの力量を信頼していないわけではないが、人為など遥かに及ばない、自然の猛威を侮ることはできなかった。不安と緊張の為か、眠れない夜であった。

翌朝、「漠然と国境稜線上にトレースをつけておけば、登攀を終えた彼らの手助けに」と考えていたが、天候はそれを許さない状況で、天神尾根から熊穴沢の避難小屋までで敗退した。一旦帰宅し、体勢を整えてから再度出直すということで帰京。帰宅後、岡さんと当時の西部連盟の友人達を集めて打ち合わせ、明朝出発ときめた。その夜、二人は下山してきた。

このことを機に、冬季登攀や冬季ロングルートを行う時のバックグラウンドの必要性を強く感じた。岡、浅井、小堀と私の4人で何回か会合を持ち、これが新しい会発足に発展していった。メンバーの岡さんは、自分にとって憧れの登山家であり、浅井さんは高校・大学時代共に学んだ部活と研究室の先輩、小堀さんは良きザイルパートナーであった。特に浅井・小堀両氏は1981年カラコルム・ディラン峰遠征を共にした仲間でもあった。

他に例を見ない会づくりを心掛けた。次のような内容である。

○会員は、全員が救助技術を身に付け、他会で要請があれば、何時でも手助けができる会（当時、西部連盟の救助隊の歴代の隊長、岡・浅井、登山学校講師、小堀・大坪であった）。

○登山に対し「常に前向きであることを忘れない」会。

○自分たちが歳老いてハードな山に登れなくなっても、会員が安全に登る為のアドバイスができる会。

○会報を読むことで、会員たちの活躍を楽しめる会。

当面の目標として、冬季利尻の南稜を目指せるといいなと考えていた。会の名前を「プリムラ山の会」と決めた。

プリムラ（サクラソウ）は、風雪に傷めつけられても、それに耐え可憐な花を咲かせる。放牧の山羊や牛に食い荒らされた山野にも美しい姿を絶やさない花（本当は根に毒があり野生の動物たちは食べない為に残っている）。

発会当時は、プリムラは何時か「死人が出るよ」と囁かれていた。が、その噂は実現していない。個々の会員の精進の賜物？

『山で決して死んではいけない』のである。会ある限りこの記録は伸ばしていきたい。互いに上手に年を重ね、山と関わりを絶やさない会でありたい。

Primula 93

アッシニボインの頂へ

・・・小堀 和貴



前号より

ホテルのロビーに張り出される週間天気予報では、雨 60%であったが、8月6日は朝から晴れていた。今日は、二人の女性ガイドと岩場へ行く予定なので、事務所へ行く。

ミス、メリー・ベスとミス、ジェーン・オルセン、通訳の谷さんは、偶然栗さんと、顔なじみであった。ジェーンは、前に田部井さんをアッシニボインに案内している、北米では有名なクライマーで、アイスクライミングが得意らしい。谷さん、ベスが私たちの車で、ジェーンは、自分の車で、レイクルイーズ湖畔のゲレンデへ向かう。

正面にビクトリア山とビクトリア氷河、エメラルドグリーンของルイーズ湖、湖畔にたたずむ一泊3万5千円のシャトーレイクルイーズ。カナダのガイドブックでよく見る観光地である。湖畔をハイカーや観光客にまじって、20分位で岩場の基部へ。5.9位のところ2か所を、ブーツで登っ

てから、アイゼンをつけて登る。栗さんがガリガリ音を立てると、静かに、眠っている赤ちゃんを起こさないように登ってと、ジェーンに言われる。トップロープを張った2本の真ん中の細かいところを、アイゼンでジェーンが登っていたが、さすがにうまいものだ。

昼食後、カムの講習をした後に、私はベスと、栗さんは谷さん、ジェーンとそれぞれ、別ルートに登りに行く。ベスがカムでリードして、私がセカンドで登るが、カムが外れなくなってしまう。

まだ登るというベス、ジェーンと別れ、私たち3人は、明日からのアッシニボインの準備があるので、先に帰ることにする。ハイウェイで振り返ると、レイクルイーズのほうは黒い雲で覆われていた。夕方、酒屋に買い出しに行くと、日本酒を持っているジェーンと会う。上の小屋で、私たちに飲ませるために、買っていたらしい。

翌日からの3日間も、予想に反して、い



い天気だった。

7日朝、キャンモアから、ハイキングで行ったハリングピークの脇の道を40分位で、ヘリパッドに着く。15人位待っていて、乗客7人のヘリは、何度も往復する。乗っているのは10分位で、アッシニボインロッジのそばに降りる。

ロッジの前にメイゴッグ湖、その向こうに圧倒的な迫力で聳えるアッシニボイン。下部の岩壁の上にハインドハットという小屋があるのだが、ルートが判然としない。でも今回は、クライアントなので気楽だ。

5人で湖畔沿いの道を行く。やがて、花がたくさん咲き、気持ちのいい草原（メドウ）に出る。インディアンペイント、黄色のアーニカなど、名前を覚えてもらう。それから、人にとって気持ちのいいところは、熊にとってもいいんだそうだ。ガイドは、クマ対策用のベアーズスプレーを腰に付けている。

岩壁の取り付けまでは、明瞭なトレイルが付いていて、ここから、アンザイレンしていく。中間あたりから、左にかなりトラヴァースする。雪の残っているところもあり、後ろを見ると、ルートが解らないんだろう、5人位後をついてくる。

滝に出てから、直上するが、この下部岩壁のルートファインディングは、初めてだと登りも下りも苦労すると思う。



傾斜が落ちてから、雪溪の上を歩いて、やっと無人の小屋ハインドハットに着いた。ここを使用する人は、事前にロッジに申し込んでおく。（有料で一泊2500円）泊れるのは10人までで、後はテントになる。中はマット、食器、ガスコンロなど、自由に使える。

しばらくして、アメリカの2人と、日本人のNさんが一人、ジェームスパーティが、登ってくる。ここまできるとアッシニボインも、迫力がある。正面に見える北稜を見ていたら、ルートはリッジかほぼ右側だと、谷さんが教えてくれる。年によって違うそうだが、今年は雪がついていない。

用意してくれた夕食を食べて、早めに2段ベッドの上で寝る。下でドタバタやっている。後で聞いたら、ジェーンが、アックスだけで小屋の中を一周して、栗さんはフィギュアフォー



とかしていたよと言っていた。

3時に起きて、4時出発。暗いと取り付きまでがわからない。

取り付きから、少し登ったガリーの所で、ロープをつける。ジェーン、栗、谷。ベスと私。3級から4級と聞いていたが、登った感じでは、2級から3級だろう。ノーロープでも大丈夫で、下りも懸垂することもなかった。

半分位登ったあたりから、曇ってきて寒くなる、頂上直下の岩場は表面が凍っていて、頂稜は雪が積もっている。9時、3456mの頂上。寒い、写真。行動食を食べ、すぐ下山。途中から、晴れてくる。ジェーンのルートファインディングは的確だ。3人なのに、あっというまに離れてしまう。途中、ジェームスパークティースとすれ違うが、随分時間がかかっている。眼下にメイゴッグ湖を見ながらの、長い下りを終え、昼過ぎに小屋に戻る。

全員、無事戻り、夕食は、ジェーンの買っ

てきた日本酒で、みんなで、乾杯。楽しい夜を過ごす。

翌日下山の途中、湖の所で、ジェーンが、ちょっと泳ぐから先に行っていくという。汗を流すのだろうけど、よくこの冷たい水に入れると、感心する。

帰りのヘリは、私がパイロットの横のシートに座る。足元が透けていて、下が見えるのがへんな感じ。

上昇してから旋回して、クリーク沿いに飛ぶ。晴れ渡った空の中、あっという間に、着陸。

今日の夜は、グリズリーボーで登頂祝いだねと、話しながら、車道脇の、木の実を食べているブラックベアーを横目に、一路キャンモアへ。

こうして、2週間のカナダ山行も、あっというまに、終わったのでした。

Primula 93

マイナールートは楽しいニャン =^_^= その6 -- 秩父・両神山・尾ノ内沢道～天理岳の巻 --

・・・初鹿 裕康

日程:2013年10月12日～13日

山城:秩父・両神山

メンバー:初鹿、山里

【コースタイム】

10/12 晴 尾ノ内(11:11)---登山口売店

(11:50)(12:05)---スズの沢(13:09)---油

滝(13:42)---シメ張場付近B.P(14:25)

10/13 晴 (7:03)---龍頭神社(8:02)---東岳(8:32)---

前東岳(8:48)---両神山(9:07)(9:16)---前東岳(9:48)

---天理岳(12:49)(13:05)---1083.5P(13:25)(13:50)

---奈良沢峠(15:11)(15:21)---日向大谷(15:56)

秋のマイナールートと言ったら西上州だが、電車とバスで行くのは遠いので、両神山のバリエーションルートにする。

前日に山ちゃんから「もう少し簡単なところがいい」とか言うメールがあったけどいまさら遅い。

西武秩父から小鹿野車庫乗換えで坂本行きに乗り、フリー区間の途中の尾ノ内で下ろしてもらう。ここから林道をしばらく歩くと、キャンプ場？この売店は、何か地元の人たちで盛り上がっていて、お茶をご馳走になる。

ちょっと先の滝は冬は水を撒いて氷結させ 200 円払って見る観光地になるそう。この先は遊歩道らしいが、油滝まで行けずに戻ってくる

人が多いので、今年の夏に赤布を着けたということだ。立派な橋を渡ると滑りやすい階段となり、本当に遊歩道？？と思うくらいの荒れた道。遊歩道なんて言える代物ではない。普通の人は無理でしょ。まあ、随所にピンクテープがあるけど。山ちゃんも久しぶりの山なので、すっかり腰が引けてしまっている。

予定通りの行程は無理かなこりゃ、と思う。今日は地獄穴という石室で泊まろうかと考えてはいるが、たぶん山ちゃんが嫌がるだろうなとは思っていた。所々ガレたところや多少道が崩れていたところはあるが、案外あっさりと油滝。ここの滝つぼをかき混ぜると雨が降るという言い伝えがあるらしい。山ちゃんは滝まで来ずにのんびりと休んでいる。

ここから沢を離れて登山道の登りになる。まあまあ、しっかりしている道ではある。地獄穴って岩壁に書いてあるところに到着。入ってみるが中はなかなか広い。雨の日なら間違いなくここに泊まるでしょう。中は立って歩けるし、無駄にテントも張れそう。山ちゃんは中にも入らず、ここで泊まるのは嫌そう。なんだ、冒険心がないなあ。今までに楽しいこと一杯スルーして

来たでしょ(^_^)。すっかりオヤジになってしまった（前から?）。

仕方がないので、さらに登って行くと沢のトラバース地点になる。あまり平坦地がないので、今日は雨も降らないだろうし、水の無い沢の中を整地してテントを張る。水はちょろちょろだが困らない程度には取れる。夜は麻婆ナス。キムラヤの辛口麻婆豆腐の素はなかなか辛くてよろしい。

ビールをコップェルに水を張って冷やせばと言ったが、水が汚れるからいいよと山ちゃん。なぜかぬるいビールを飲んでた。翌朝レトルトを温めていたお湯で紅茶飲んでたけど…。なんか久々に山ちゃんと泊まりで来たので、調子が狂うなあ。

翌日はここから急な登りを、ガンガン針金や鎖を使って登ると龍頭に出る。ここにはもう一般の登山客が結構いる。東岳を過ぎ前東岳に荷物を置いて、両神山山頂。富士山も見える。

一旦前東岳まで戻って天理尾根を下る。最初の急な下りが核心。かなり急な下りの上に、ザレみたい岩状の上に砂が乗っていて勢い余ったら滑落しそうな感じ。そんな場所を何とか通って行く。途中何箇所か岩も出てくるがなんてことはない。左右切れ落ちている感じのところもあるけど。

山ちゃんが最後は右から回って天理岳と何度も言うので、天理岳らしい岩場にぶつかったところで、正面を登らず右に回りこんで、あんまり良くない岩場を登る。が、山ちゃんの持っているルート図には右に回りこむなんて一言も書いてなかった。ここの岩場は正面突破が正解。左にもトラバースルートと赤布有り。最後はなんてことなく天理岳に到着。

さっき無駄に時間を使ってしまったので、奈良尾沢峠道に出ないで直接日向大谷に下ったほうが早いので山ちゃんに提案する。天理岳の直下の長い鎖を下り、三角点ピークの手前から犬曳尾根を下っていくが、左右が切れ落ちているので沢状の所を下ろうよと提案するが、却下される。

予定通りのコースをと言われ、結局予定通り尾根上に行く。尾根は赤布がかなりばっちりついており、登山道の様。途中左に急下降するところもあるが、木の根がしっかりあるのでロープは出さなかった。こっちのルートだと 15:10 のバスには乗れないなあと言っていると、バスがあればいいんだよタクシーに乗らなくて済めばとのたまうので、人間出来てるなあと思う。意外と早く奈良尾沢峠道に出てしまったので、ちょっと残念。三角点から先はバリエーションって感じではなかった。ここからしっかりとした道を日向大谷へ。

バス停には登山客が一人待っていた。バスは2時間弱来ない。山ちゃんはなんか暇をもてあましている感じで、ちょっとイライラしている。さっきの人間と同じ人か?? ようやく来たバスに乗って、両神温泉で乗り換え。風呂嫌いの山ちゃんが風呂に入ろうとしないので、私も諦める。乗り換え時間が25分もあったので、私だけでも入れば良かった（昔待ち時間10分で風呂に入った経験有り）。西武秩父からは特急で帰ったのでした。

何十年ぶりの両神山はなかなか良いところだった。今度は地獄穴に泊まってみたいなあ。しかし、山ちゃんと一緒に山に行けるのは、後どれくらいかなあ。テニス好きの山ちゃんは最後までテニスしているのだろう。私は山好きなので山に行かないなんて考えられないけどね。

Primula 93

小川山セレクションほか

・・・佐藤 正俊



駐車場からのセレクション

日程：2013年10月27日(日)

山域：甲信・小川山

メンバー：水野、小田、佐藤

行程：5時東京発(佐藤車)→廻り目平大日

駐車場→セレクションほか→帰京

がら大日駐車場に着いてみると幸運にも快晴、無風のグッドコンディション。

相談の結果、駐車場から良く見え浸み出しもない屋根岩2峰のマルチピッチ、セレクションに行く事とする。既に4ピッチ目辺りを誰かが取付いている。歩き始めるとあたり一面の山道は紅葉の絨毯で覆われており、改めて秋の深まりを実感する。

1. セレクションの登攀

今シーズン6回目の小川山は、台風27号と28号の影響で大荒れの予報だ。そのため残念ながら日曜日のみの日帰り行程とし、天候を心配しな

取付きに着くと既に先行パーティーが右クラックルートから登り始めていたため、空いている左



屋根岩2峰の山頂



屋根岩3峰、南稜レモン

側(5.5)から佐藤が2本のロープを引きオールリードの登攀を開始する。登り出しは朝日が目に入り、岩場が見えず緊張する。2ピッチ目のダイヤモンドフェースも傾斜がきつく、朝イチのギゴチないムーブで大汗をかく。しかし初めての小田はフォローで難なく登って来る。体も温まり3ピッチ目のクラック内トラバース、4ピッチ目の核心のフェースも3人とも好調に登り終える。

いよいよ5ピッチ目が前回登っていない高度感抜群の水平トラバースだが、何とトラバースの入口がビショビショに濡れている。不安と恐怖心が頭をよぎるが意を決して、ありったけのカムを持ってトラバースを開始する。やってみると抜群にフリクションが効き、あっけなく最終ピッチのビレーポイントに辿り着く。

最終ピッチの左右2本のクラックは、左が5.9と難しいため自重して易しい右のクラックを登る。登り出しの3～4mの垂壁を越えると急に傾斜が緩み、30～40cmのワイドなクラックを越え2峰の終了点となる。こんなに簡単なら左クラックにすれば良かった。登攀時間は2時間半。3人でしかも順番待ちの時間も含めているので、かなり順調なクライミングである。

正面に見える威風堂々、3峰の南稜レモンがまるで手招きをしているかのようだった。

2. コグレ大サーカス

50mの懸垂下降の後、取付きに戻る。まだ昼過ぎなのでコグレ大サーカス(10c)に取付く。

最初に佐藤がリードでチャレンジするが、3～4m登った所であっけなくフォール。その先の核心部も2、3回墜落し、フリーで越えられずクイックドロウの簡易アブミでようやくトップアウトする。水野、小田もトップロープで登るが1回目はみんな核心部でテンションがかかる。ムーブを確認して臨んだ2回目はようやくノーテンションでトップアウトする。3人とも2～3回チャレンジし、夕暮れ時も迫ってきたので大満足の1日を終える。

3. そして帰路

ギア撤収後ナナーズでノンアルビールを購入し、ヘルシーパーク川上(300円)入浴後、みんなで乾杯。食堂ふじもとで焼肉定食(1300円)を頬張り、渋滞回避のため秋山街道経由で帰京した。

宝剣岳、木曽駒ヶ岳

・・・佐藤 正俊



千畳敷からの宝剣岳

日程：2013年11月16日(土)～17日(日)
山域：中央アルプス・宝剣岳/木曽駒ヶ岳
メンバー：平、佐藤

[行程]

15日：22時武蔵浦和発(佐藤車)→中央高速辰野パーキングで仮眠
16日：萱の平駐車場→千畳敷→宝剣岳→木曽駒ヶ岳→頂上山荘でテント泊
17日：頂上山荘→千畳敷→萱の平駐車場→帰京

1. 宝剣岳の登攀

今シーズンの冬山初めは平、佐藤でロープウェイ利用の楽チン山行となった。木曽駒ヶ岳には随分昔に冬2回登っているが、すぐそばの宝剣岳は2度とも小屋のおやじに止められて登っていない。確かに滑落事故が後を絶たないのだが、今回が3回目の挑戦である。

毎週の山行疲れと仕事も忙しかったため、前日に慌ただしくパッキングを終える。今回は新品のゲーター付冬靴(スポルティバのバツラ)の足慣らしも兼ねているので何となく気も急いている。

ところが武蔵浦和で平ちゃんをピックアップすると、何とオーバージャケットの忘れ物に気が付く。コリゃいかん\(><)/。大して遠回りにならないからと言い訳をしつつ、大急ぎで自宅に戻り、一路中央道に向かい、午前1時30分に中央道、辰野パーキングに到着。トータル3時間半で辿り着いたので、多少飛ばし気味だったか。ともかく明日の晴天を願い早々に仮眠する。

翌朝は7時に起きパーキングのコンビニで買い物を済ませ、8時過ぎに萱の平駐車場に到着する。天気は快晴でバス停からも宝剣が良く見える。萱の平駐車場(利用料金500円)は広くてトイレも完備されており、ここで仮眠でもいいかもしれない。増発された2台目のバスに乗り、ロープウェイで千畳敷に到着する。登山客も10人前後おり、各自思い思いの場所で登山支度を始める。前日までの降雪で白さを増した急峻な宝剣岳の勇姿が、真っ青な空に映えている。



登山禁止看板と宝剣岳



宝剣岳の山頂

千畳敷の急登は1時間ほどで、降雪が多ければ如何にも雪崩れそうな急傾斜だが、今日は夏道も出ており不安なく宝剣小屋に到着する。宝剣小屋は人数で屋根補修工事中、小屋番の姿は見えない。

相談の結果、天気も良いので宝剣岳を往復する。小屋からのトレースを辿って行くと登山禁止の看板で踏み跡が途切れてしまうが、そのまま前進する。急な雪面からロープを結び、頂上直下は真新しいステンレス製のクサリに導かれて山頂に到着。トレースに頼らず本日の初登頂者になった事がチョットだけ嬉しい。山頂では北アルプスや富士山も望める絶好の眺望を楽しみ、慎重にトレースを下って宝剣小屋に戻る。

あとはユルユルと木曽駒ヶ岳に登り、テントを設営すれば本日のミッションは終了。サギダル尾根か中央稜狙いのパーティも1組いたが、殆どの登山客は日帰りで1～2パーティは空木岳方面への縦走らしい。我々も十分日帰りが可能だが、平ちゃんの希望もあり今回は冬山順応のため敢て1泊山行とした。

午後1時半にはテント設営を終了、寒くてやることも無いのでテント内でヌクヌク仮眠。そうこうしている間に単独の登山者がテントサイトを物色している。今晚は我々のテントと2張だけのよう

夕方は4時過ぎ位からゆっくりと晩飯を食し、早目に就寝する。標高2900mの天場は真冬並みに寒く、テント内でも指先がかじかむほど。満天の星空だが、夜半からは強風が吹き荒れてくる。何とかトイレに行かずに一夜を過ごし、ホッとして朝を迎える。

2. 下山して

翌朝は5時半に起床しテント撤収。我々のテントは小屋陰で強風を免れたが、単独行者のテントはとも寒かった事だろう。

天候の良いうちに下山路を下り9時に千畳敷に到着。10時前には萱の平駐車場に着き、こまくさの湯(600円)に入浴する。露天風呂で疲れを癒していると、天気予報どおり宝剣岳がみるみる雲に覆われてしまう。きっと山頂は強風で、もしかすると吹雪になっているかも知れない。

ゆっくりと風呂に浸かった後は駒ヶ根「いな垣」で名物のソースかつ丼を食べ、「かんでんばばガーデン」で寒天を試食し、箕輪町のりんごをお土産に帰路に就いた。

Primula 93

蝙蝠岳で越年

・・・たいら まり

日程:2013年12月29日～2014年1月2日
山城:南アルプス
メンバー:リーダー、平

12月29日 晴

07:30 新倉ヘリポート～11:40 保利沢
小屋～13:30 二俣～16:30 伝付峠

まだ暗いうちに埼玉を出る。新倉の駐車場の先、ヘリポートまで上がって停車。ほかの車はない。雪もうっすらついていて、水の心配はなさそうだ。

川に沿った車道をそのまま田代発電所に向かって歩く。発電所が川向こうに見えると、橋の袂には伝付峠を指し示す道標があった。台風による崩落以来、通行止めになっていた登山道は、この田代発電所を見て直進するのだが、新しく付けられた道は、ここで左折。さらに進むと、発電所裏手にも道標があり、取り付きを間違える心配は免れた。

沢沿いにちょっとした渡渉を繰り返し、堰堤を越えると、右岸から左岸へ。ペンキがいたるところにあり、ここが八丁峠への登り口と知れる。ザレたルンゼの左側を、黄色いワイヤーを頼りに登る。急なうえに、南に面した斜面は、落ち葉が積み重なって足場が悪い。ずり落ちそうなところを、ワイヤーにつかまって登ると、八丁峠についたので、緊張をとりてひと休み。人工物の残骸が散乱していた。右手には鉄塔が見える。

下りに入ると雪が増えたので、アイゼンを付けた。トラバース気味にまたもや急なところをくぐると、沢に降りる。ここを渡ると旧道との合流点。きょうの核心はこの渡渉。

飛び石伝いに先に渡ってもらい、さらに私のザックを背負ってもらって、空身の私が続く。無事に渡渉して、あがると旧道にぶつかった。

ほぼ平坦な道を歩くと間もなく保利沢小屋につく。平坦とはいえ、沢沿いの道は崩れ気味であり良くない。右岸にゆくと雪は吹きだまっていて、時に道を探しながらさらに進む。要所要所には、ワイヤーだの栈道だのがあって、それが目印。トレースは、1週間くらい前のものと思われるものがろうじて残っていた。

アザミ沢とヨモギ沢の出合に着いたら、すでに13時半になっていた。うまくいけば二軒小屋まで行けるかと思っていたが、伝付小屋までで時間切れになりそう。道は、これまでのところと比べれば圧倒的に良いのだが、急登である。息をきらしながら登っていると、間もなく、別パーティに追い抜かれた。

雪が膝上まできたので、わかに履き替える。が、それも一瞬でまた膝下程度に。疲れきって全然進めず。途中の水場が凍っていなかったのも、ここで水を大量に汲む。峠も近いかわれたが、20～30分程度登り、ようやく峠にたどり着いた。

日も暮れそうな 16 時半。途中、夕暮れの富士山が大きく見えた。

少し降りたところを整地して、幕を張る。雪を落とすのもそこそこに、暗くなるとばかりにテントに入った。夕飯はグリーンカレー。思いのほか暖かく就寝。

12 月 30 日 晴

07:30 伝付峠～09:20 二軒小屋～10:10 蝙蝠尾根取付～15:40 標高2,400m付近

朝 4 時起床。お茶を飲み朝食の支度にかかる。朝飯は、トマトスープペンネ。時間はまたたく間に過ぎ、出発 6 時半。最終日にここで泊まることを予定して、ゴミとサンダル（渡渉用）は、デポして木の枝に。

昨日出合ったパーティは 6 人。昨晩は、彼らが二軒小屋で泊まってくれていたおかげで、そのトレースを追うように歩く。二軒小屋までは下り。標高 50m ごとには、案内板までついていて道はよく整備され、歩きやすい。あっさりくだと二軒小屋手前の神社で、安全祈願をして、小屋の脇のベンチで休憩。ここからしばらくは車道になり、幅広の車道の真中につけられたトレースをたどって、橋を渡り、トンネルをくぐり、右手に川を見て緩やかに登ると、蝙蝠岳登山口の道標に出会う。10 時くらい。

アイゼンを付け、木の根を縫うような急な登り。それでも八丁峠の登りに比べるとずいぶんラク。わずかながら岩場めいたところもあった。樹林が切れ、視界が急に開けると、管理塔が現れる。ロープの脇を通り、鉄の長い階段を登り、再び樹林帯へ。

雪に阻まれ思うように上がらない標高。伝付峠の高さにすらなかなか達してくれない。1 時間くらい登っては地図を眺めるが、きょう徳右

衛門岳に届くのは、無理なことがわかってくる。15 時過ぎたらテント場を探すことに決め、歩数を数えながら登った。

15 時を前にして、先行パーティに追いつく。ここで先頭を交代。急に歩を早めたリーダーに、私はまったく追いつけなくなり、見えなくなりそうな先頭を泣く泣く追いかけた。まだ？と呼びかけること、再三にわたり、16 時前にテント場を決め、整地にかかる。ちょうど強風を避けられる場所で、木々がしなる音が聞こえても、窪地になったそこにはほとんど風がない。整地している脇を、先のパーティが通り抜けてゆく。

テントを建てたと同時にテントに潜り込んだ。スパッツも外せず、雪集めやらトイレ作りやらの仕事をお任せして、痛くて我慢できなくなった指先をじっと温めていた。

落ち着くと、水作りの開始。ちょっとした酒宴と（お酒は持ってゆかなかったが）、夕飯を終えると、さらに水作りに専心し、就寝 21 時半になってしまった。夕飯は、レトルト豚丼。

12 月 31 日 晴

07:30 標高2,400m付近～徳右衛門岳
～12:40 蝙蝠岳～15:30 幕場

4 時に起床したら雪が降っていた。少し迷うがとりあえず出発の準備開始。朝飯は、レトルト中華丼。塩分が妙においしい。朝食が終わるころには、雪は止み明るくなりだした。風は強い。

テントは張ったまま。不要な荷物は置いて、わかんを履いて出発。7 時過ぎ。いきなりの急登で、降ったばかりの雪にすぐに体力を消耗する。30 分も歩かないところに、先行パーティのテント跡があった。塩見まで縦走する彼らは、ずっと荷物



蝙蝠岳へ続く尾根



道標にしがみつく

を背負ってゆかなければならない。

ほどなくして、先行パーティに追いついた。少しいつてゆくが間もなく先頭を交代。きょうは、私も先頭にたって歩く。雪は深くてさらさら。足場を固めるのに苦労する。しょっちゅう落とし穴に埋まるが、荷物が軽いので助かる。森林限界を越えると、青空が広がり歓声があがる。傾斜が緩み、岩が出てきたところで大休止。11時半。蝙蝠岳の山頂は、目の前である。これなら帰ってこられると、山頂まで行くことにして、お茶を飲み、目出帽をかぶって、アイゼンをつけた。

天気はよく、雲ひとつないが、風は強い。風にすぐわれそうなのが怖くて何度も立ち止まるのだが、3000m級ではふつう、とリーダーに返されてよろよろと後に続く。先を歩きながら山の説明などしているリーダーが恨めしい。

山頂にたどりついて、12時過ぎ。ああ良かった！道標にしがみついて写真を撮ってもらう。振り返ると富士山が正面。登頂できた幸運を喜び、風に耐えて廻りを見渡した。これから緊張の下山だったが、風が多少弱まったおかげですんなり下れた。

途中では、いつもの6人組とすれ違い、挨拶を交わして別れた。

下りは早い。樹林帯に入り、日当たりの良いところで休憩を挟みながら、ぼちちりついたトレースを下ると、15時半にはテント場に戻れた。テントを設営する必要もない。きょうは大晦日。水を作りながら、ラジオで紅白を聞き、年越しそばをすすする。9時前には就寝。

1月1日 雪

07:30 標高2,400m付近幕場～11:00 蝙蝠尾根取付
～12:00 二軒小屋～14:50 伝付峠～15:10 水場

お決まりの4時起床。雪が降っていたが、また昨日のように明るくなると予想して準備にかかる。新年なのでお雑煮。少しだけおせちも添えて、正月の演出をした。

テント撤収にかかるが雪は止まない。7時半出発。雪の降りは激しくなるばかり。トレースも消えかけているので、時々埋まる。とうとうわかんが壊れてしまった。木の根の間に挟まって、苦労して足を持ち上げてみると、外枠の輪の部分が外れ、用をなさない。しかたないので、片方のわかんて歩く。



無風の泊り場(30-31日泊)



水場前の泊り場(1日泊)

2 番手だから若干マシか。

管理塔が現れ、階段を下りるとさらに急な下り。下りきって車道に降りたのが、11 時過ぎ。アイゼンを外して、車道を歩くが、雪が重くて歩きにくい。トンネルの下では、地面に張った氷に足を滑らし、ようやく二軒小屋に着いたのが 12 時過ぎ。冬季の開放小屋に入って、大休止。奥は畳の間になっており、かなり広い。ここに泊まれたら良いのに…。

仕方なく雪の中に出ると、アイゼンをつけて伝付峠への登りにかかる。急ではあるが、登山道はちょうど良い傾斜で、ジグザグにつけられており、順調に高度をあげた。3 時過ぎ、伝付峠へたどり着く。峠は、腿までのラッセルで、デポしたゴミとサンダルを回収すると、風を避けて、下りに入る。水場前は、昔には小屋があったとかで平坦になっており、ここにテントを設営することにする。天気さえよければ、眺めも良さそうだ。

水を作らなくて良いのがありがたい。夕飯は、レトルト牛丼。いつになく早く支度が終わり、8 時くらいに就寝。

1 月 2 日 晴

07:30 水場～08:30 二俣～11:00 八丁峠～
12:00 田代発電所～12:40 新倉ヘリポート

4 時起床。昨夜はどのくらい降ったのか。きょうも雪かと思っていたら、日が射しだした。朝飯はレトルト親子丼。そろそろ下界が恋しい。

テントを撤収して下りから。雪は凍ったり、深かったりで途中でアイゼンを付ける。沢の出合には、10 時ごろ降り立った。第一の難関はこの渡渉だが、先日と同様にザックを背負ってもらって飛び石伝いに渡る。無事通過。八丁峠へ登り返しがしんどい。峠へ出ると、日が射してぐっと暖かくなった。八丁峠からの下りは慎重に。落ち場を足で探りながら、ワイヤーに助けられて下る。それでも登りよりははるかに短い時間で降りきった。第二の難関通過。

アイゼンやスパッツを洗って、沢沿いに緩やかに下る。雪は来た時よりもかなり減っているようだ。発電所の脇に出たのが 12 時くらい。12 時半ごろには、車のあるヘリポートにたどりついた。4 泊の山行を終え、お風呂と食事が待ち遠しく喜んで帰途についた。

Primula 93

積雪期のマイナールートも楽しいワンU^I^U

その14 南ア・中の尾根山～光岳 大敗退の巻

・・・初鹿 裕康

日程:2013年12月29日～2014年1月1日

山城:南アルプス・光岳

メンバー:初鹿、山里、栗原(杉並山の会)

【コースタイム】

12/29 曇 ゲート(10:30)-橋(13:34)-登山口(14:11)

12/30 曇 (5:31)-岩下(8:25)-中の尾根山(12:43)
(12:57)-B.P(14:41)

12/31 雪 (9:03)-B.P(12:37)-中の尾根山(13:26)
-B.P(14:31)

1/1 雪 (7:27)-中の尾根山(8:40)(8:51)-コル
(10:03)(10:22)-登山口(11:56)(12:19)-ゲート
(14:38)

今年は光岳の登り口が通常ルートだと畑薙ダムから登るくらいしか、道は開けていない。残る道はと探すが、池口岳から登るのがなかなかいい感じではある。調べていくともっとマイナーなルートがあったので、ついそちらに興味を惹かれてしまった。時間的には池口岳から登るより、もうちょっと時間はかかるが、池口岳から登って光岳に登れない悔しさよりも、中の尾根山から登って光岳に登れない悔しさのほうが、まだ許せると思い、後者ルートにする。この山は営林署の許可が必要なので営林署の許可をもらう。雪があるかどうか、なかなか調べ切れなかったが、標高2000mを越えれば(雪での水の確保も)何とかなるだろう、程度に雪の量を考えてしまっていた。遠いのでなるべく早く東京を出発し、新東名で浜北インター。ここからの下道が意



なんだかんだ言っても楽しそうな山ちゃん

外と遠く、テントを張るところもなく、やっと見つけたオートキャンプ場にテントを張る。快適。晩飯のおでんを食べて就寝。

今日はゆっくりだと思ってたら、ゆっくり過ぎた。キャンプ場から登山口のゲートまで車で1時間位かかってしまった。しかし山奥である。入り口のゲートに登山届けを出し、林道をひたすら



一瞬だけ見えた富士山

歩く。重い荷物の急な登りはきつい。林道の脇にちらほらと雪が出てくる。思ったより雪多いかも。結局かなり時間がかかってしまい、登山口に着いたときには 14 時を過ぎてしまっていた。仕方がないので、明日頑張ることにして、登山口の小屋で泊まることにする。小屋の中に TENT を張るスペースはなく、山ちゃんは埃っぽいからいやだとかのたまう。しかし、中を掃除して、薪ストーブを使っの快適な山小屋生活がおくれた。薪を焚きすぎて熱いくらいだった。

翌日暗いうちに出発。冬山ではなかなかありえない(ーー)!!。急な坂を登っていくが、思ったより雪がかなり多く順調には進めない。途中でわかに履き替える。夏のコースタイムでは 3 時間もあれば登れるのだが、いつまでたっても近づく気配はない。岩下まで 3 時間近くもかかってしまった。夏なら 2 時間。さらに登っていくと 2214P の登りに掛かってしまう。このピークと中の尾根山の鞍部辺りに出ればよかったのに……。中の尾根山との鞍部あたりからは二重稜線が続く。やっとのことで中の尾根山についた時には、もういい時間になっていた。隣の三又山あたりまでには行きたいと思い、赤布を追いかけていくが最低鞍部あたりの標高を過ぎて

もまだ下っていく感じの稜線。時間も押し迫ってきたのでテン張ることにする。風が強く雪模様の天気。

31 日。雪模様で風強し。今年は天気が好いはずだったのに、とても池口岳までアタックすることは厳しい。少なくとも鶏冠山位までは行きたいと思い空荷で、先に進む。しかしいつまでたっても下り基調。もしかして一本右の尾根に入ってしまったかも。しかし赤布は結構頻繁にある。標高的にもおかしいので一旦テン場に戻って確認することにする。テン場を通り過ぎ再び中の尾根山山頂へ。コンパスで方向を改めて確認。やはりここで赤布に引っかかってしまったようだ。正規のルートの方には全く赤布はなかった。確認しなかったのが間違いのもとだったのだが、こんな辺鄙な尾根になんで赤布がこんなにあるのだろう……。明日は元旦。天気はどうだろう。

結局元旦になっても天気はすぐれず、昨日の踏み跡を重荷を背負っての敗残兵となる。3 回目の山頂に着く。あとは下りだけと思いきや、ここからの下りがちょっとホワイトアウト状態。左に曲がりぎみに下っていくのだが……。コンパスと地図を確認しながらの下りとなってしまった。二重稜線を覚えていたので何とか鞍部辺りに到着。後は本当に下り一方だ。ひたすら下って登山口。長ーい林道をさらに下ったのでした。元旦の夜は海のそばの民宿に泊まり、スナックでマグロをつまみに乾杯でした(^_^)。

しかし、今年も誰にも会わない年末年始。この辺の山はまだまだ行っていない山ばかりなので、通ってみたいが、いかんせん遠い。冬にまとめて縦走しようかな。

Primula 93

子連れハイク (2 歳)

・・・市瀬 江利子

大きくなればなるほど山に行きやすくなるかと思ったら、2歳のこの時期は背負子を嫌がるので、逆になかなか大変です。

2013 年 9 月 22 日 宝永山火口 (2400m)

子連れハイクNo.16

メンバー：市瀬、他4

コースタイム：富士宮口新5合目登山口(9:50)---宝永山火口(10:52-11:28)---新5合目登山口(13:00)



少し足場のいい登山道。ここなら一人で登れます。

どこか秋の山に登りたいなぁと思っていたところ、岡さんから宝永山火口が子連れハイキングにぴったりとの推薦があったので、早速、妹家族と一緒に試みることにしました。子供は登る気満々で、登山口から早速張り切って登って行きます。ガレ場の道は手をつなぎ、ひっぱりあげる感じで登らせませす。大人は大変ですが子供は結構楽しんでいて、結局宝永山火口の入口まで、倍のコースタイムをかけながらも、自分の足で登ってしまいました。ここからの火口の景色は素晴らしく、出来れば宝永山まで行きたかったのですが、倍かかるコースタイムを考えて、ここから一周ルートを下って帰ることにし



宝永山火口。小さく人が登っているのが見えます。



風が強いけど景色は最高。やっぱり富士山は気持ちいい！

2013/12/8 高水山 (759m)

子連れハイクNo.17

メンバー：初鹿、北原、市瀬、他4

コースタイム：登山口(12:13)---高水山
(14:00-14:20)---登山口(15:30)

プリムラ祭の帰りに高水山に登ってきました。コースタイムは1時間弱のはずが、子供が自分の足で歩きたがるので、手を引いて歩かせ、急な箇所は抱っこで登っていたら、たっぷり2時間かかってしまいました。途中、おむつ替えなどもあったのに、辛抱強く待ってくれたみな



登山口。張り切って登ってます。

さんに、感謝です。帰りはやっぱり疲れたのか、すんなり背負子に乗ってくれたおかげで、ほぼコースタイム通りで下山できました。

ました。ザレ道の下りは大変そうだったので、背負子に乗せると、さすがに疲れたのかすんなり背負子に乗ってくれました。途中、お弁当を食べつつゆっくりと帰ったので、帰りもたっぷり1時間かかってしまいました。

余談ですが、最近、おむつの取れていない子供は、どこに行ってもお風呂を断られてしまうため、帰りのお風呂探しが大変です。やっと赤ちゃん用のバスタブを使うという条件で、入れる温泉を探したのですが、毎回毎回大変なので、おむつが取れるまではお風呂はおあずけにして、さっさと帰ったほうが良さそうです。



やっと頂上。お待たせしました。

2年ぶりの最大酸素摂取量測定（8/22） とInbody測定（10/24）

8/22 東京体育館の改修工事も終わったので、久しぶりに全身持久率測定に行く。今回は出来るだけ倒れる寸前まで走ろうと、気合を入れていったら、血圧が上がってしまい危うく走れないところだった。気合も程々に（—）!!。久しぶりのトレッドミルは前の機種のままみたい、他の機械は新しくなったそう。顔につけるマスクがいつも邪魔なんだけど、つけていないときちんと測れない。まずは身体にコードを一杯着けたままトレッドミルの上で安静にして立っている。3分後スタート。最初はゆっくり、だんだんとスピードと傾斜が上がって行き、もうだめだ一、まで走るのだが、止め時が難しい…。ぎりぎりまで走ると本当に転げ落ちてしまいそうだし。かなり苦しくなるところまで何とか走って終了。止まってマスクを外して、しばらくは息が苦しかった。汗もボタボタ出る。あーまいった。

結果。最大酸素摂取量は49.2mlで前回よりは上がった。目標50mlだったがおいしい。でも標準値の1.49倍。AT値（有酸素運動から無酸素運動に代わる境界心拍数。乳酸がたまらない目安）は下がって心拍数99あたりだそう。標準の1.3倍らしいけど低すぎるかね？AT値110位でトレーニングすればAT値は上がるらしい。

明日は健康診断だが激しい運動とこの後飲んじゃったので、大丈夫か？？

10/24 自分の通っているジムでInbody測定（測定できる項目は体重、筋肉量（各部位についているそれぞれの筋肉量）、体脂肪量、体脂肪率、体

水分量、タンパク質量、ミネラル量、基礎代謝量、BMI、1日の摂取エネルギー量の目安などで、筋肉量や脂肪量の調節目安なんかもわかる）を200円で始めたらしい。どんなもんかネットで調べていたら、無料で測ってくれるところを見つけたので、健康診断2（前回大丈夫ではなかった健康診断をもう一度。酒、運動2日前から禁止）の帰りに寄ってみる。時間は、ほんの5分もあれば終了。計ってもいない胴囲が勝手にわかるらしい（インピーダンスがどーたらこーたらで…。昔アマチュア無線の免許取るときに勉強したけど忘れた）。

結果、「肥満」です（知ってます）。筋肉は全体的には51.5kgで標準の範囲。部位的には上半身の左が弱い。右は標準。バランスが悪いね。下半身はバランスよく高い。要するに上半身がヨワッチイ（良く知ってます）。基礎代謝は1548kcalで低目らしい。

よーわからんが、上半身を鍛える。今は筋持久力的なトレーニングをしているので、回数を少なくして負荷を上げるのが良いらしい。有酸素運動はこれ以上出来ないの、あとは脂肪と体重を減らすしかないってことか？データが残っているので3ヶ月位したらまた測りに行くべし。

形態計測（機械によってこんなに違う）

8/22 体重:74.4kg BMI:27 体脂肪率:17.4%
10/24 体重:73.5kg BMI:26.4 体脂肪率:25.8%

どうよこの違い。

RUNET EKIDEN 多摩川大会

小堀さんが江東シーサイドに申し込み忘れたというので、急遽申し込んだ多摩川駅伝。しかし、小堀さん→山ちゃん、ERIKO→こはく、というメンバー変更。

第1走 初鹿裕康

第1走はやはりプレッシャーもあるし、結構あわただしい。とりあえず前のほうに並ぶが、久しぶりの10kmなんで緊張。42分半位で走りたいが…。ちなみにコースはダートって感じで、アスファルトではない。最初の1kmはやはり重い、でも4分11秒で突破、まあ最初だけ。途中3kmの折り返し、5kmの折り返しを見るたびに、あ〜、と思いモチベーションが下がる。とにかく10kmは結構辛い。折り返してからは、結構気も走るのも楽にはなったが…。まあ、タイムが4分40秒くらいだから当然か…。2走の山ちゃんにたすき渡せるか（いるか）どうか心配。

11/10 RUNNET EKIDEN 多摩川大会
-EKIDENロングの部-

参加663チーム 区間順位

第1走

初鹿裕康 10km 45'36 198位 45:36 198/663
46'05 195位(トランジット)

第2走

山里守広 5km 1'12'57 231位 26:52 359/663
1'13'22 226位(トランジット)

第3走

初鹿こはく 3km 1'29'43 198位 16:21 266/663
1'30'10 195位(トランジット)

第4走

佐藤正俊 5km 1'54'09 175位 23:59 209/663

ということで無事完走。偶然親子で順位が一緒でした。お疲れ様でした。とりあえず良かった良かった。

第33回 江東シーサイドマラソン

毎年恒例の江東シーサイドだが、今年は1人で走ることになる。モチベーションは上がらないが、35分は切りたい。



無理をせず 1km4 分 29 秒で走れば間に合いそうなのだが、会場はオリンピックオリンピックで盛り上がっている。さすが江東区。なるべく前のほうに並んでスタート。最初の 1km を 4 分 8 秒で入れたので結構いい感じかも。前回の駅伝 10km で 45 分切れなかったのはかなりショックだった。まあ、ダートと言えど。今回もやっぱり最初の 9 秒を維持できるはずもなく徐々に落ちていく。ムム…。しかし 10km で 45 分を切れていたのもちょっと嬉しい。問題は後半、残り 6km 位までは 35 分切れるじゃないかと思っていたが、4 分 29 秒ペースを守れず、1km ごとにタイムを見るたびに、だんだんと無理な

感じになっていく…。まあ、今考えれば 1km の目標タイムより 10 から 20 秒くらい遅れているのだから当たり前か。最初は計算を間違えたのかと思った。今回は登り坂が結構きつく感じられた。最後の 1km はなんと 4 分 52 秒致命的ですなあ。自分の中では結構頑張っているつもりだったのだが、結果去年より 15 秒ほどの遅れとなってしまった。情けない。ゴールして記録表をもらい首を傾げていたら「納得行かない？」と役員に言われた。まあ、まったく納得いかないよ。後半はもっと頑張れたはずだと思う。強いて言えば向かい風もあったにはあったけど…。しかし今回はレース終了後から右のハムストリングスの筋肉痛がとれない。よわっちいなあ。

去年はスポーツジム 148 回、スイミングスクール 40 回（ジム代金の元は取れてるかな）、山登り 68 日、ランは皇居ラン 10 回位に、普段のランが 40 回位かな？

レースは 7 回（ベストバウトは奥武蔵ウルトラだね！！でも、もう一度走れって言われても…。楽しい大会でした）。

11/24 第33回 江東シーサイドマラソン

★ハーフ壮年男子の部★

出走者数:634名 完走者数:599名

48位1時間36分23秒

久しぶりにラップタイム。この落ちのはげしさったら泣ける。

1km	4'08	
2km	4'15	8'24
3km	4'17	12'41
4km	4'22	17'04
5km	4'29	21'33
6km	4'28	26'01
7km	4'32	30'34
8km	4'33	35'07
9km	4'36	39'43
10km	4'38	44'21
11km	4'31	48'52
12km	4'35	53'27
13km	4'31	57'59
14km	4'40	1"02'40
15km	4'37	1"07'18
16km	4'51	1"12'09
17km	4'49	1"16'58
18km	4'35	1"21'34
19km	4'42	1"26'16
20km	4'47	1"31'04
21km	4'52	1"35'56
ハーフ	0'27	1"36'23

なほみさんのいつまでやってんだクライミング日記。

— 10月から1月末までいってしまえ! —

93

水野 奈保美



毎度のうめくさでございます。人名は基本敬称略で伏せたり伏せなんだり。スラックラインもやったりやらなんだり。瑞浪に通ったり通わなんだり。成果もちよびとてできたような気がしたりしなんだり。

10月

10/6 日 小川@大山

末端壁にあがったものの、ガスが晴れず。小川へ転進
レイバック→バナナ岩

10/12-14 小川@岩田、小俣

初日:兄岩 ジョイフルジャム(5.8)・マガジン(10a)
2日目:巨人ゴーレム 仙人の家(マルチ)+モビ夫婦
3日目:初心者2人をご指導。妹岩・愛情物語、川上小俣

10/16 Twall 江戸川橋

(以下、江戸川橋または帝王るエド、お江戸など)

10/19 土 瑞牆→小川→ウエストロック@大山

植樹祭Pへ行くが雨なので小川へ様子を見に行く。戻るうち一とすれ違ったので、東京に戻る。常々気になっていた八王子のボルダージム「ロックビーンズ」に行ってみるが、なんと開店15時だど。いったん家に戻り、森さんを乗せて府中のウエストロックへ。あとからこーちゃんも来る。小川帰りの(プリムラとは別の)浅井さんとM代っちも来る。午前中小川で登ってい

たらしい(ほんとうか?)

10/23 小江戸

10/25 Solanis (スラックジム)

10/27 日 小川@佐藤、小田

・セレクション・コグレ大サーカス

10/29 帝王るエド

10/31 Solanis

11月

11/2・3・4 瑞牆→府中@大山

11/2 土

・調和1Pめ

・アストロドーム ギア持ってトップロープ

・春うららをちょっと触ってみる

11/3 日

・調和1Pめ

・アストロドーム

やっと完登

登り終えた頃に雨→塩川東屋へ

11/4 月 塩川→ウエストロック

シーズン最後にやっとアストロドームに登れた～

1日目にカムサイズ確認リハーサルしたら登れそう

だったので、精神的には余裕があったのだけど、リードしてみたら核心超えたら落ちられない一心

なほみさんのいつまでやってんだクライミング日記。

— 10月から1月末までいってしまえ! —

水野 奈保美

93



で粘りのRP。ガリィちゃんがザパンを倒したあとの「苦しい戦いだったよ」のセリフが頭をよぎりましたよ！
(誰もわからないだろう銃夢ネタ)

11/12 帝王るエド

11/16・17 小川 宮川さん送る会@大山

11/16 土 レイバック→カサブランカ

11/17 日 蜘蛛の糸取付きまで(時間切れ)

11/20 帝王るエド

11/23 ビラ配りに奥多摩駅→御岳

デッドエンド前人多杉。逆ギレして15時過ぎに帰る

11/24 天王岩@お師匠

- ・ノーリの隣の10a
- ・ノーリー○
- ・べんたろう○
- ・しんきろう○

べんたろうは最初のガバで足がぶ～らぶらw30年ぶり
なしんきろうはあれの楽勝、ノーリーだって驚きの余裕な(本日)一撃。トップロープで、なんて言っていないでちゃんとリードしてよかった。

・八月:いろいろやってみたがカチ取り後だな
もんだいは(トップロープ)

11/27 帝王るエド

青5.9 青10a左 黄10c×2 青10d× 赤10d×

11/28 ウエストロック ラインのみ

12月

12/1 (日) 日帰り瑞浪@大山

豊橋杉原さんご案内。

朝4:20西八王子→高尾4:30→きなあた瑞浪7:50

- ・やさしいクラック(10a)テンション2回。騙されたw
- ・アダム(11a)TR×2

すばらしいクラック～スラブも良しです。しばらく通うことになるでしょう。

12/3 (火) Solanis ライン1時間。

12/5 (水) 帝王るエド@佐藤小田

赤10a 緑10bx2 青10a 青テープ10a TR10a
ボル 緑×4 青×1

12/7 (土) 天王岩@大山・お師匠(馬頭刈山)

珍しく大山さんが来たので森さんは馬頭刈山へ。

現地で佐藤小田、別口で西本パーティ。長年しつこくやってきた八月のキョンムーブですが、この度デッドムーブに組換え、一から練りなおすことに決定(遅)。

・ねはんの風

Page

30

なほみさんのいつまでやってんだクライミング日記。

ー 10月から1月末までいってしまえ! ー

93

水野 奈保美



- ・クラックジョイ
- ・八月トップロープをお借りして×2
- ・ミンミン×1

- ・ミストレル○
- ・インディアンドールTR×2
- ・スーパーシリアスジャムTR×1

12/8 (日) 天王岩@お師匠

肩がいたい森さんを無理やり迎えに来させて、八月のデッドムーブを探ろうと思ったのだが・・・なぜかパワーシフトが人気で取り付けなかったよ、つてのは言い訳だけだな。今シーズン最後と思ったから触りたかったんだけどな～(落胆)

- ・クラックジョイ
- ・ノーリー×1
- ・しんきろう

12/11 (水) 帝王エド@佐藤小田

手前 青10d○ 赤10a×2 ○ 中緑右10b×2 ×
7:00～10:00 3時間で5本

12/14・15 (土・日) 城ヶ崎オープン@大山

14日: 藤沢シノラーとオレンジ村泊

- ・ミストレル○
- ・ホッテントットTR○
- ・カラスTR○
- ・ボクサーTR○

15日:

全体的にだいぶネバれるようになってきたよ今回はオープン戦ということでまだトップローパーだけど、次回くらいからはリード普通にならないと。

12/18 (水) 帝王エド@佐藤小田

リード壁入口寄りのガリニュアルされてたYO
なのでさっそく赤10d/11a ○ 青11a○ 気持ちよく
いちげき 緑10b右○ 奥の青10d@)×
ループのっこしはデッドで練習しよう。

12/22-23 (土・日) 瑞浪@大山小田

12/22

- ・余裕のよっちゃん
- ・おだクラック
- ・ロンパールーム

12/23

- ・余裕のよっちゃん
- ・アダム×2

12/25 (水) 帝王エド@佐藤小田

赤10d/11a ○

青11aちょっと滑ったワン店 青10d×3

やっぱのっこしが出来ないので、届くホールドを

なほみさんのいつまでやってんだクライミング日記。

— 10月から1月末までいってしまえ! —

93

水野 奈保美



使ってトップアウトするスタイルに変更して3本目に
ノーテンでトップアウトできた。あとはちょっと遠い正
規のホールドをデッド!! 出来るようになればいいの
だ。手前前傾の2本でアップも可能(青は足が滑ってし
まったが)だし、少しずつ出来るようになればいいのだ
ヨン様!

12/30-31 (月・火) 瑞浪@大山

12/30 寒

- ・余裕のよっちゃん
- ・有紀子
- ・ノア

12/31 寒

- ・あらよっと
- ・エースをねらえ

2014 年 1 月

1/4-5 (土・日) 瑞浪@佐藤小田

1/4

- ・ロンパールーム :MSワン店
- ・有紀子:TR
- ・余裕のよっちゃん:TR・
- ・アタックナンバーワン:TRいちげきだったの
でリードすりゃ良かったと後悔 どんぶり会館

泊。

1/5 : ALLTR

- ・ロンパールーム
- ・アストロドーム右
- ・原住民
- ・エースをねらえ:ギア持ってTR

1/9 帝王のエド@佐藤小田

手前 赤○ 真ん中 赤10a○ 奥 青10d×(赤ホールド使
用) 真ん中青左 青右10a×1○

1/11 城ヶ崎@大山佐藤

- オーシャン
- ・ミストレル
- ・ホッテントット TR
- ・カラス

日蓮 TR

- ・インディアンホール×
- ・イブ×

1/12 湯河原@佐藤 桜井西本小田

- ・シンデレラ
- ・クリスマスローズ×
- ・ゲイシャワルツ×2

Page

32

山行一覧(1) 2013年9月7日～11月3日

No.	山行日	山域	ルート	参加者	区分
3407	9月7日	甲信	三ツ峠	佐藤他	岩トレ
3408	9月14日	甲信	瑞牆山大ヤスリ岩・ハイピークルート	小堀・佐藤	バリ
3409	9/14～15	奥多摩	長尾谷の沢出合まで	初鹿・平	沢
3410	9/19～20	富士	富士宮5合目宝永火口	岡	写真撮影
3411	9/21～23	甲信	小川山	水野他	フリー
3412	9/21～23	北ア	槍ヶ岳北鎌尾根	西本・他3	バリ
3413	9/21～22	北ア	槍ヶ岳～奥穂高岳	小堀・佐藤・他1	縦走
3414	9/21～23	上越	尾瀬ヘイズル沢	初鹿・平	沢
3415	9月21日	奥多摩	越沢バットレス	桜井	岩トレ
3416	9月22日	富士	富士宮5合目宝永火口	市瀬・他4	ハイク
3417	9月23日	道志	陣馬高原	北原	ハイク
3418	9/27～28	八ヶ岳	横岳	岡	写真撮影
3419	9月28日	甲信	倉見山	初鹿・他	ハイク
3420	9/28～29	甲信	小川山	水野・他	フリー
3421	9月29日	上越	谷川岳中央カンテ	平・他1	バリ
3422	9月29日	奥多摩	天王岩	西本・桜井	岩トレ
3423	10月6日	甲信	小川山	水野・他	岩トレ
3424	10月6日	道志	陣馬～高尾	初鹿	トレラン
3425	10月8日	日光	奥日光・中禅寺湖千手ヶ浜	岡	写真撮影
3426	10/12～13	秩父	両神山・尾の内沢道～天理岳	初鹿・山里	バリ
3427	10/12～14	甲信	小川山	佐藤・他	フリー
3428	10/12～14	甲信	小川山	水野・他	フリー
3429	10/12～14	北ア	北穂高岳	北原・他1	ピークハント
3430	10/13～14	日光	奥日光・温泉ヶ岳／中禅寺湖千手ヶ浜	岡	写真撮影
3431	10/13～14	上越	東黒沢ウツボキ沢	平・他1	沢
3432	10/13～14	上越	錫杖岳	西本・桜井・他	バリ
3433	10/17～18	東北	安達太良山／那須岳	岡	写真撮影
3434	10月19日	湯河原	幕岩	佐藤・他	フリー
3435	10月19日	房総	鹿野山	市瀬・平・他2	ハイク
3436	10月27日	甲信	小川山	水野・小田・佐藤	フリー
3437	10月27日	道志	高尾～小仏城山	初鹿・他	ハイク
3438	10/31～11/1	北ア	徳本峠	岡	写真撮影
3439	11月2日	甲信	三ツ峠	岡	写真撮影
3440	11月2日	西上州	子持山獅子岩	佐藤・他	フリー
3441	11月3日	伊豆	城山	佐藤・他	岩トレ

山行一覧(2) 2013年11月3日～12月15日

No.	山行日	山域	ルート	参加者	区分
3442	11月3日	西上州	榛名黒岩	西本・桜井	岩トレ
3443	11月3日	八ヶ岳	飯盛山	初鹿・他	ハイク
3444	11月5日	上越	谷川岳・一ノ倉沢	岡	写真撮影
3445	11月9日	伊豆	城山	佐藤・他	岩トレ
3446	11月9日	信越	鏡池・黒沢高原	岡	写真撮影
3447	11月10日	奥多摩	越沢バットレス	桜井	岩トレ
3448	11月14日	奥多摩	青梅丘陵	初鹿	トレラン
3449	11/16～17	甲信	小川山廻り目平	水野・他1	フリー
3450	11/16～17	中ア	木曽駒ヶ岳・宝剣岳	佐藤・平	雪山
3451	11月17日	奥多摩	越沢バットレス	桜井・初鹿・小田	岩トレ
3452	11月23日	湯河原	幕岩	佐藤・他多	フリー
3453	11月23日	奥多摩	御岳ボルダー	水野・他	フリー
3454	11/23～24	上越	谷川岳一ノ倉沢	岡	写真撮影
3455	11月24日	丹沢	広沢寺	桜井・小田	岩トレ
3456	11月24日	奥多摩	天王岩	水野・他1	フリー
3457	11月24日	上越	谷川岳西黒尾根	平・他1	雪山
3458	11月30日	八ヶ岳	裏同心ルンゼ	小堀・佐藤	アイス
3459	11月30日	奥多摩	陣馬山	北原・他1	ハイク
3460	12月1日	岐阜	瑞浪屏風岩	水野・他	フリー
3461	12月1日	奥多摩	越沢バットレス	桜井・佐藤・小田	岩トレ
3462	12月1日	奥多摩	日の出山北尾根	初鹿・他1	ハイク
3463	12月1日	信越	浅間山前掛山	平・他1	雪山
3464	12月1日	岐阜	瑞浪屏風岩	水野・他	フリー
3465	12月7日	奥秩父	大菩薩嶺	岡	写真撮影
3466	12月8日	奥多摩	天王岩	水野・西本・小田・佐藤	フリー
3467	12月9日	奥多摩	高水山	初鹿・市瀬・北原・他4	ハイク
3468	12月11日	上州	赤城山	岡	写真撮影
3469	12月14日	八ヶ岳	広河原沢右俣	小堀・佐藤	アイス
3470	12月14日	八ヶ岳	富士見高原～西岳	初鹿・他1	雪山
3471	12/14～15	伊豆	城ヶ先	水野・他1	フリー
3472	12/14～15	八ヶ岳	ピラタス山頂～雨池	平・他3	雪山
3473	12月15日	三浦半島	鷹取山	桜井・西本・佐藤・他1	フリー

山行一覧(3) 2013年12月15日～2014年1月15日

No.	山行日	山域	ルート	参加者	区分
3474	12月15日	奥多摩	日の出山北尾根～日向和田	初鹿	トレラン
3475	12月19日	道志	小仏城山東尾根	水野・他多	ハイク
3476	12/21～22	八ヶ岳	広河原沢クリスマスルンゼ	小堀・佐藤	アイス
3477	12月22日	奥多摩	青梅丘陵	初鹿	トレラン
3478	12/22～23	岐阜	瑞浪屏風岩	水野・小田・他1	フリー
3479	12/23～25	西上州	赤城山	岡	写真撮影
3480	12/27～29	中ア	木曽御嶽山	大坪	雪山
3481	12月28日	伊豆	城ヶ崎	水野・他	フリー
3482	12/28～30	八ヶ岳	権現沢右俣	小堀・佐藤	アイス
3483	12/29～1/1	南ア	中の尾根山	初鹿・山里・他1	バリ
3484	12/29～1/2	南ア	新倉～伝付峠～蝙蝠岳 (往復)	平・他1	雪山
3485	12月30日	奥多摩	越沢バットレス	桜井	岩トレ
3486	12/30～31	岐阜	瑞浪屏風岩	水野・他	フリー
3487	12月31日	奥多摩	越沢バットレス	桜井	岩トレ
3488	1月2日	伊豆	城ヶ崎	桜井・西本	フリー
3489	1/3～4	伊豆	城山	桜井・西本	フリー
3490	1月4日	奥多摩	青梅丘陵	初鹿	トレラン
3491	1/4～5	岐阜	瑞浪屏風岩	水野・小田・佐藤	フリー
3492	1月6日	南ア	入笠山	初鹿	山スキー
3493	1/6～8	信越 / 八ヶ岳 / 奥秩父	浅間山・清里の滝・乾徳山	岡	写真撮影
3494	1月11日	伊豆	城ヶ崎	水野・佐藤・他1	フリー
3495	1月12日	湯河原	幕岩	水野・桜井・西本・小田・佐藤	フリー
3496	1月12日	八ヶ岳	権現岳	小堀・初鹿・他1	雪山
3497	1/14～15	西上州	赤城山・大滝／地藏岳	岡	写真撮影

雪山なんて登っていると、なんでこの寒いのにわざわざとかよく聞かれる。しかし、答えようがないんだよね。実際に雪山と一緒に登ってみたいと、決して楽しさはわからない。言葉に表せないものもあるよね。それがきつと山登りだろう。知らない人は損してると思うんだけどなぁ。(H)

今回は会の創立 30 周年記念に寄せて、創立時の方々に原稿をお願いした。山行を共にすることがあまりなく、話を聞く機会も少ないので、貴重な経験を読めるのありがたい。すでに半分近くが入会 5 年未満の会員で占められている（私もその 1 人）いま、意義があったように思う。これも会報のおかげか。(T)

プリムラ 30 年 Anniversary 記念号ですが、普段と変わらぬデザインですみませぬ。調子が出てきたと思ったら指が大変なことになってしまい、しかも編集作業で細かいマウスさばきすら(以下略)…最初の頃、江東シーサイドで小堀さんが壮年クラス？うしし〜、ピロヤス君もいつのまに〜！ししし、って思っていたら私も仲間になってしまいましたよ。この年になってみてみんなすごいなあと思う。だってさ(最初に戻る:M)

プリムラ創設会員の重鎮の皆様、ありがとうございました。



Anniv

Primula

発行所：東京都八王子市散田町3-38-6B primula.ac@gmail.com <http://primula.mizunodesign.com>